

# 落葉果樹でのモモノゴマダラノメイガの発生消長とクリでの薬剤防除

モモノゴマダラノメイガは、クリやモモの果実を直接加害して、品質を著しく損なう古くからの重要害虫である。近年、ナシやブドウ（写真1）でもその被害が問題となっており、今後その発生動向が注目される。ここでは性フェロモンを利用した本種の発生消長とクリでの防除試験の結果を紹介する。



写真1 ブドウ果実の初期被害

## 1. 落葉果樹での発生消長と防除時期

クリ3園、モモ2園、ブドウ4園、ナシ3園（計12園）に設置した性フェロモントラップによる発生消長を、図1に示した。

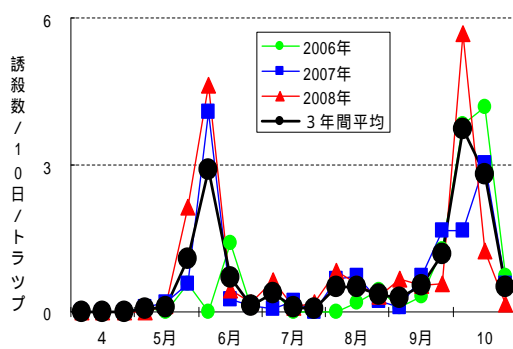


図1 モモノゴマダラノメイガの性フェロモントラップによる年次別の発生消長  
注) 数値は全て12地点(トラップ)の平均

6月上旬、7月上旬、8月上・中旬、10月上旬の計4回成虫の発生ピークがあり、特に6月と10月のピークは明瞭であった。

このうち前半の2回がモモ、ナシ、ブドウ等を中心に産卵し、8～9月のやや不明瞭なピークが、主にクリへ産卵しているものと推察される。このため、モモ等では6、7月の前半に各1回、クリでは、8、9月の各前半に各1回防除が必要となる。

## 2. クリでの薬剤防除

クリの品種別に防除試験を、2年間実施した。試験は、クリの防除時期である8、9月の前半に、本種の登録薬剤であるエルサン乳剤（1000倍）を各1回ずつ散布し、効果を検討した（表1・2）。

表1 クリでのモモノゴマダラノメイガに対する品種別の防除効果(2007年)

薬剤処理日と薬剤名(希釈倍率)	調査月/日	品種	調査果数	被害果率	対無処理比
8/6	9/5				
エルサン乳剤(1,000)	10/5	銀寄	342	5.1	21
		石鎚	327	3.0	27
エルサン乳剤(1,000)	9/14	大峰	317	9.8	57
		大峰	340	17.2	100
無防除	10/5	銀寄	242	23.9	100
		石鎚	321	11.0	100

注) 散布量は300%<sup>10</sup>/10aとした。

表2 クリでのモモノゴマダラノメイガに対する品種別の防除効果(2008年)

薬剤処理日と薬剤名(希釈倍率)	調査月/日	品種	調査果数	程度別被害果数	被害率	対無処理比
8/4	9/5			無 少 多		
エルサン乳剤(1,000)	9/25	銀寄	217	198 12 7	5.1	36
		石鎚	217	182 31 4	6.7	34
エルサン乳剤(1,000)	9/10	大峰	170	158 9 3	4.1	24
		大峰	228	121 104 3	17.0	100
無防除	9/25	銀寄	255	200 28 27	14.2	100
		石鎚	225	146 51 28	20.0	100

注) 散布量は300%<sup>10</sup>/10aとした。

その結果、対無処理比（何も防除をしなかった場合の被害を100としてその比率を算出）に示す通り、2007年の‘大峰’の57を除けば、いずれも36以下となり、約1/3～1/4の被害に抑制することができた。

（虫害班 主任研究員 金崎秀司）